

한통련 뉴스레터

제104호

発行:在日韓国民民主統一連合(韓統連)

〒110-0016 東京都台東区台東4丁目31-7-302 電話/FAX 03-4362-5284

メール chuo@korea-htr.org

ホームページ <https://chuo.korea-htr.org/>

ニュースレター配信をご希望の方は chuo@korea-htr.org までご連絡ください。(メールにお名前をご記入の上、件名に「韓統連ニュースレター配信希望」とお書きください)

정세 情勢

●広場と野党、緊急集中行動を展開…「憲裁は尹錫悦に対し罷免を即刻宣告しろ！」



尹錫悦即刻罷免を要求する16次汎市民大行進の参加者

尹錫悦罷免要求全国行動に100万人結集

「尹錫悦(ユン・ソンニョル)即刻退陣・社会大改革 非常行動」(非常行動)は3月15日、ソウル光化門一帯で「内乱首謀者・尹錫悦即刻罷免 3.15全国行動」(ソウル「尹錫悦即刻退陣! 社会大改革 15次汎市民大行進」)を展開し、100万人の参加者は「憲法裁判所(憲裁)は内乱首謀者・尹錫悦を即刻罷免しろ」と一斉に声をあげた。全国行動はソウルを始め全国15の道・市で同時展開された。また、民主労総・全国集中労働者大会、全国農民大会、「5野党共同 非常時局対応のための汎国民大会」などが事前開催された。

17日には非常行動代表団と即刻罷免に同意する国会議員、市民ら1500人が緊急時局宣言(600団体、個人7700人が

賛同)を発表し、憲裁に決断を迫った。19日は「民主主義守護の日」として終日、多様な罷免要求行動を展開した。

非常行動、3次緊急集中行動に突入

憲裁の罷免決定が遅延を重ねて広場の市民の憤怒が高まる中、非常行動は21日、光化門の断食ろう城現場で記者会見を開催。22日から尹錫悦即刻罷免を求める3次緊急集中行動に突入し、さらに強力な闘いを展開するとした。そのために、尹錫悦が釈放された8日から同日まで続けた共同議長団の断食を中止した。

22日、全国17カ所で市民が結集する中、光化門一帯で16次汎市民大行進が開催され、参加した200万人の参加者は、内乱首謀者・尹錫悦の罷免宣告を遅延する憲裁を糾弾し、「市民の力で尹錫悦を罷免しよう」と声をあげた。

非常行動は集中行動における27日総力闘争として、全農「全奉準(チョン・ボンジュン)闘争団」(※1)のトラクター行進、民主労総の全面ストとそれと結合した全国市民全面スト(27日)を予定。闘争団は25日から警察の規制弾圧に抗して、「南泰嶺の大勝利」(※2)を市民と共に再現しながら

ら、ソウルへ進撃した。また、25日には青年学生が緊急行動を展開。ノーベル文学賞を受賞したハンガン氏ら作家414人は各自の1行メッセージを集めた声明を、韓国作家会議と文学者2487人は時局宣言をそれぞれ発表した。

野党は広場との連帯を強化している。共に民主党は24日、光化門にテント本部を設置し最高委員会議を継続開催。民主党は26日から憲裁前で1000人無期限断食闘争に突入すると明らかにした。

憲裁、韓惠洙への弾劾訴追を棄却

憲裁は24日、韓惠洙（ハン・ドクス）首相の弾劾訴追を棄却した。裁判官8人の内、罷免には当たらないとする「棄却」の意見を示したのは5人。2人は弾劾訴追の手続きに不備があったとして「却下」、1人は罷免を認める「認容」とし、判断が分かれた。罷免には裁判官6人が認容する必要がある。棄却の判断を出した5人中4人は、国会が推薦した憲裁の裁判官候補3人の任命を保留したことは違憲とした。ただ、「国民の信任を裏切ったと断定することができず、罷免を正当化する理由があるとは言えない」とした。非常戒厳の違憲性については判断を示さなかった。

国会は尹錫悦の非常戒厳宣言を共謀したり黙認・ほう助したりしたとして、韓首相を弾劾訴追していた。

憲裁の決定に対し、韓首相の弁護士は「憲裁が賢明な判断を下したことに感謝する」と述べた。

韓首相を弾劾訴追した国会側は、棄却決定に遺憾の意を示しながらも、尹錫悦の弾劾審判の判断と関連したメッセージを憲裁が出したとの解釈を示した。

国会側の弁護士は「韓首相が憲裁の裁判

官を任命しなかったことは違憲・違法だが、全体的には（罷免までには）不十分だと判断したようだ」とした上で、「だが、韓首相が国政運営を適切に行わなかったというメッセージはあると思う」と指摘。「（尹錫悦による）『非常戒厳』の実質的な実行に関与したという具体的な証拠がないため、憲法と法律に違反したと言えないとしたが、逆に非常戒厳を積極的に実行した首謀者は憲法に違反したということだ。非常戒厳自体の影響を考慮すると、これがいかに重大なのかという判断がついたと思う」と主張した。

非常行動は光化門の政府ソウル庁舎前で緊急記者会見を開催し、「内乱共犯・韓惠洙を復帰させた憲裁を糾弾する」「憲裁は内乱首謀者・尹錫悦を即刻罷免しろ」と主張した。

李在明代表に「逆転無罪」判決

ソウル高裁は26日、2022年の大統領選に絡み虚偽の事実を述べたとして、公職選挙法違反の罪に問われた第1野党「共に民主党」の李在明（イ・ジェミョン）代表について、懲役1年、執行猶予2年とした1審判決を破棄し、無罪を言い渡した。判決に対し同党は検察に謝罪を要求し、与党「国民の力」は遺憾を表明した。検察は上告する方針を示した。（※3）

憲裁は罷免を即刻宣告すべき

憲裁は韓惠洙に対する弾劾審判において、違憲行為があったと判断しながらも棄却決定を下した。理解しがたい論理展開であり、憲裁に向けて糾弾の声があがるのは当然だが、国会側は「逆に非常戒厳を積極的に実行した首謀者は憲法に違反したということだ」と指摘し、戒厳首謀者・尹錫悦に対する罷免決定を見通した。

いずれにしても、韓首相に対する決定が

出たことにより、憲裁に係留された大部分の弾劾審判が整理されたと言える。事実上、尹錫悦に対する弾劾審判の宣告だけ残っている状況だ。

予想をこえる憲裁の決定遅延に対し、広場と野党は連帯を強化し、闘いの水位をあげながら、早急に罷免宣告をかちとる決意を示している。一方、憲裁の姿勢は結果的に弾劾反対を叫ぶ尹錫悦支持勢力、すなわち内乱・反乱勢力を勢いづかせ、暴力・テロ行為も憂慮される状況をつくり出すなど、社会全般に深刻な混乱を引き起こしている。こうした勢力を清算し内乱を終息させ、民主主義と憲政秩序を守り抜かなければならない。憲裁は尹錫悦に対し罷免を即刻宣告すべきだ。現在の情勢はそのことをますます明らかにしている。

※1「全琿準闘争団」 全琿準（1854～1895年）は甲午農民戦争（1894～1895年）の指導者。全国農民会総連盟（全

農）はトラクター闘争部隊を全琿準闘争団と名付けた。

※2「南泰嶺の大勝利」 2024年12月21日、地方から全琿準闘争団のトラクター部隊が尹錫悦即刻退陣要求集会に参加するためにソウルへと向かう中、警察が南泰嶺（ソウル市の冠岳区、瑞草区と、京畿道果川市との間に位置する峠）で警察バスのバリケードを設置してトラクターを阻止、暴力鎮圧する事件が発生。その様子がSNSで拡散されると、市民が次々に現場に駆け付け、闘争団と夜を徹して共に闘い、闘争団は警察の壁を打ち破りソウルに堂々と入った。この闘いは農民と市民の共同闘争で勝利した画期的なもので「南泰嶺の大勝利」と呼ばれている。

※3 情勢記事<「共に民主党」李在明代表の「司法リスク」>（ニュースレター101号、2月14日）参照

（3月26日）

●情勢短信

朝鮮、韓米日海上訓練に反発・警告



海上訓練に参加した米空母「カール・ビンソン」

朝鮮中央通信は3月25日、韓米合同軍事演習「フリーダムシールド」と並行して実施された韓米日海上訓練（17～20日、済州島南方）に対する論評を通じ、「各種の軍

用機が群れをなして4日連続で狂乱的に繰り広げた3者海上訓練は、ただでさえ険悪な地域の政治軍事情勢を最極端に緊張させた」と反発し、「敵対国のいかなる挑発と脅威も圧倒的かつ決定的な対応に直面することになる」と警告した。続けて、トランプ米政権が前政権からの大幅な政策転換を図っているが、朝鮮に対する敵視政策だけは執ように継承し、邪悪に変異させながら朝鮮半島と地域で多目的な戦争ギャンブルをさらに大きく繰り広げていると指摘した。その上で「米国の反共和国対決の狂気が深刻になるほど、国家の安全と地域を守護するためのわれわれの努力と行動は加速し倍加するだろう」と警告した。

●【記事紹介】「センシティブ国」指定は米国の低劣な内政干渉

米国エネルギー省が、韓国を安全保障や核不拡散などで特別に注意が必要な「センシティブ国」に指定したことが最近、遅れて明らかになった。この問題を巡り、政府・与党と野党は相互に責任転嫁し、政府はあわてて米国との協議に乗り出し弁明に追われる事態が繰り返されている。だが、この問題の本質は米国の内政干渉だと指摘する民プラスの記事（3月18日）を紹介する。

米国が大韓民国を「センシティブ国」に指定した事実が遅れて知られることになった中、野党は「政府・与党が核武装論を主張し起きた外交惨事」だと批判する。しかし、これは問題の本質からはずれた対応だ。

センシティブ国の指定は、米国が韓国の混乱事態に乗じた低劣な内政干渉である。批判の矢は米国に向けられなければならない。

米エネルギー省（DEO）は1月、バイデン政権下で韓国をセンシティブ国と指定した。韓国が尹錫悦（ユン・ソンニョル）の内乱犯罪で混乱する中、こうした措置は韓国の主権と外交的自律性を侵害する行為である。政治的混乱状況の中で、韓国内の権力構図の再編に影響力を行使しようとする米国の腹黒い意図が隠されている。

米国は様々な部署でセンシティブ国のリストを別々に作成する。今回、韓国はエネルギー省のリストに含まれた。エネルギー省は、原子力、AI、スーパーコンピューター、原子力技術などの先端技術を管理する。センシティブ国指定により、これらと関連した研究協力、燃料供給、機関協力が制限される。

そしてAI・半導体企業の対米協力がさらに難しくなる。結果的に韓国の先端産業

の競争力が委縮し、米国の技術への依存度がより深まることになる。

しかも米国は事前の協議や通知の手続きを経ずに、韓国をセンシティブ国に指定した。米国と協力する研究機関、企業、大学などが従来とは異なる厳格な手続きを要求され、調査した結果、指定が判明した。これは、米国が意図的に韓国政府を圧迫し、政治的影響力を行使しようとしていることを意味する。

一部では、尹錫悦政権が核武装論を提起したり、内乱状態を示したことが、米国の措置を呼び起こしたと解釈されている、しかし、これは本質を曇らせる主張だ。

米国が韓国をセンシティブ国に指定した理由は、韓国国内の特定の論争のためではなく、韓国の政権交代の過程で、自国の政策に忠実に従う政権を確立するために、米国が戦略的に介入したことである。

米国は現在、大統領選挙が早期に実施される場合に備え、自国の利益に合致する政権を確立することに集中している。米国が韓国を戦略的に管理している点を考慮すれば、今回の決定が単なる技術協力の問題ではなく、政治的圧迫の手段として活用されるのは明らかだ。

一部では、米国が今回の措置を取ったのは、韓国国内の論難による避けられない決定だったと主張し、同措置に対する反発を自制すべきだと指摘する。しかし、これは結果的に米国が内政干渉を正当化する論理に過ぎない。

米国が韓国の技術力と産業発展をけん制し、政治的方向性を統制しようとする動きを見せているにもかかわらず、これを容認するのは国家主権を放棄することである。特に、弾劾局面でこのような指定が行われ

た点を考量すれば、これは韓国の政治的自主性を破壊しようとする試みである。

米国が韓国をセンシティブ国に指定したのは、韓国の政治的混乱を利用した圧迫戦術であり、侵略的な内政干渉と見なければならぬ。

これを容認する態度は事大主義に陥った愚かな行為だ。韓国政府と国民は米国の圧迫に屈服してはならない。米国の侵略的介入を正しく認識し、強く抵抗しなければならぬ。

らない。そうでなければ、韓国はこれからも米国の戦略的道具として利用されるだろう。また、政治的混乱は整理されずに持続しながら、米国の下請け国家の地位から逃れられないだろう。

原文

<http://www.minplusnews.com/news/articleView.html?idxno=15954>

활동보고 活動報告

●韓青が冬期講習会を開催…「民族的に生きる」ことを共有



文化マダン後、参加者で記念撮影

在日韓国青年同盟（韓青）は3月14日から16日にかけて「第60回韓青全国冬期講習会 コリア青年モイム2025」を横浜市内で開催した。全国から同胞青年が結集し、祖国・民族と自身のつながりについて討論した。

1日目の開会式の後、韓青史学習会を実施。韓成祐（ハン・ソンウ）中央委員長が今年結成65周年を迎える韓青のこれまでの歩みについて報告した。

2日目は兵庫県本部の朴偕泰（パク・ヘテ）

氏が講演。韓国滞在中の体験や、韓国の弾劾政局について語った。その後東京都本部の崔藝隣（チェ・イェリン）氏が、自身が製作した、日本軍「慰安婦」運動を支える活動家と関東大震災朝鮮人虐殺追悼に取り組む在日朝鮮人の姿を描いた短編映画2本を上映した。

韓青文化マダン（広場）を2年ぶりに実施。地方本部の文化発表ではサムルノリ、ソルチャンゴ、ノレアンサンブルが披露され、各班の発表では韓国の退陣集会を題材にした寸劇が披露された。

閉会式では「全国の仲間と再会し元気をもたらすことができた」「班別討論で知らなかったことを知ることができた。これからも地域の活動に参加したい」など、参加者の感想を全体で共有した。朴槿洙（パク・クンス）実行委員長（大阪本部常任委員）が閉会あいさつ。「講習会を通じて韓青青年の情熱を感じることができた。今後も活動に邁進していこう」と強調した。

●大阪本部が韓統連セミナーを開催…金昌範代表委員が報告



報告する金昌範代表委員

韓統連大阪本部は3月16日、大阪市内で〈第2回韓統連セミナー「韓国の反戦運動と米軍」〉を開催した。

金昌範（キム・チャンボム）代表委員の主催者あいさつ後、崔誠一（チェ・ソンイル）事務局長が韓国情勢を報告し、△尹錫悦（ユン・ソンニョル）大統領拘束取り消しの問題点△尹大統領の即刻罷免を訴える韓国民衆の闘いについて報告した。

金代表委員が「韓国の反戦運動と米軍」をテーマに報告。韓国の反戦運動について「朝鮮戦争を契機に韓米相互防衛条約が締結され、米軍が韓国の軍事統帥権を掌握し、現在

も韓国軍は米軍に従属している」「1980年の光州民衆抗争を通じて、それまで反米の無風地帯と言われていた韓国で反米反戦運動が台頭してきた。その後、1992年に起こった米兵による尹今伊（ユン・グミ）氏殺害事件など、米軍による犯罪への怒りが反基地・反米運動へとつながっている」と報告。

韓国の反戦平和運動については「朝鮮半島の軍事緊張激化と戦争準備を進める米国との闘い無しに、平和を進めることはできない。特に停戦（準戦時）状態が米軍駐留の理由となっている中で、平和協定締結に向けた闘いは不可欠だ。一方で、南北の和解と統一への動きを推進することで、民族内部から戦争の要因を除去するための営みが引き続き必要だ」と語り、今後の課題として△親米極右勢力を追い込むこと△対米従属を克服できる政府をつくることを提示した。

質疑討論後、孫啓榮（ソン・ゲヨン）副代表委員が閉会あいさつした。

●神奈川本部が情勢学習会を開催…李俊一事務長が報告



報告する李俊一事務長

韓統連神奈川本部は3月16日、川崎市内で情勢学習会を開催した。

韓統連の李俊一（イ・チュニル）事務長が報告。トランプ米政権の外交政策について

「戦争を終結させるという名分でウクライナ、パレスチナ戦争に介入しているが、自国の利益ばかり主張し、かえって状況を混乱させている」とし、「韓国の次期政権は民族自主の立場から対米交渉するよう求めているかなくてはならない」と語った。

国内情勢については尹錫悦（ユン・ソンニョル）退陣運動のこれまでの経過を整理。△各自で展開していた退陣運動団体がひとつに結束し、運動をけん引している△新たに運動に参加した若い世代と、これまで闘いを継続してきた既存の世代が広場を通じて相互理解を深め、新しい集会文化を創造し

ている△尹錫悦罷免後の社会大改革まで展望し、準備していると解説。「光の革命はキャンドル革命から進化し、韓国社会の未来にも責任をもつようになった。今後韓国の

社会発展をけん引していこう」と語り、「尹錫悦罷免決定まで、わたしたちも揺るぎなく闘いを貫徹しよう」と強調した。

●活動レポート

「オプティカル労組」定例支援行動



日東電工に抗議する参加者

「韓国オプティカルハイテック労組（以下、オプティカル労組）を支援する会」の定例行動が3月13日朝、行われた。オプティカル労組と民主労総・金属労組中央本部は、亀尾工場（慶尚北道亀尾市）からソウルの国会まで350キロメートルにわたる「希望テクテク大行進」の成果の上に、3月7日、禹元植（ウ・ウォンシク）国会議長に面談し、日東電工と日本政府・国会に対し労働弾圧と人権侵害をやめて、一刻も早く雇用継承するよう要請した。品川駅前での宣伝行動では、韓統連の宋世一（ソン・セイル）委員長が「韓国で広場に結集する市民は尹錫悦（ユン・ソンニョル）の罷免とあわせて韓国社会の大改革を求めており、その中でも労働者の権利保障は重要な課題」と強調。「禹議長への要請」に言及しながら、韓国政府はオプティカル争議の解決を日本政府に強く要求し、日本政府はそれを受け入れるべき

だと訴えた。日東電工東京本社への申し入れ行動は会社側がエレベーターを止めて拒絶した。支援する会はその後、日東電工製の部品を携帯電話に使用するアップル（アップルストア渋谷店）へのアピール行動を展開した。

定例行動は24日にも展開され、李俊一（イ・チュニル）事務長がアピール。「韓国の労働運動はこれまで長きにわたって労働者のために闘い、勝利してきた。今回の尹錫悦退陣運動でも先頭に立って民衆をけん引している。団結した労働者には、どんな権力も企業も勝てない。オプティカル労組勝利の日まで共に闘おう」と訴えた。

全国会議、月例宣伝行動

「韓国良心囚を支援する会全国会議」が3月24日、都内で月例の宣伝行動を展開。良心囚全員の再審無罪と国家保安法の撤廃を訴えた。韓統連の李俊一（イ・チュニル）事務長がアピール。「良心囚の問題の背景には国家保安法の存在がある。韓国では尹錫悦（ユン・ソンニョル）大統領に対する退陣運動を進めるとともに、今後の社会改革の課題として国家保安法など、韓国社会に残る悪法の撤廃が論議されている。韓国国民と連帯し、国家保安法の撤廃と良心囚全員の名誉回復を実現しよう」と語った。

행사예정 行事予定

3月

韓日民衆連帯アクション(大阪)

日時: 3月29日(土) 午後6時~7時 場所: JR鶴橋駅前 内容: プラカード・マイク
アピール他 主催: 韓統連大阪本部・韓青大阪府本部 連絡先: 090-3822-5723 (崔)

4月

韓統連セミナー(京都)

日時: 4月6日(日) 午後1時~3時 場所: キャンパスプラザ京都 内容: 「光復(解放)
80周年 韓国大統領選挙と私たちの課題」(講師: 金昌五(キム・チャンオ) 副委員長)
参加費: 1000円 主催: 京都本部(準) 連絡先: 070-5661-0531 (李)

第28回統一マダン神戸プレイベント(兵庫)

日時: 4月27日(日) 午後1時30分受付、2時開始 場所: 兵庫区文化センター 講習
室 内容: 「ペンライトが照らす韓国の未来」(講師: 李俊一(イ・チュニル) 事務長) 参
加費: 1000円 主催: 同実行委員会 連絡先: 090-5016-6352 (李)

5月

第28回統一マダン神戸(兵庫)

日時: 5月11日(日) 午前11時~午後3時30分 場所: キャナルタウン広場 内容:
舞台出演(神戸朝鮮歌舞団、川口真由美さん、きむ・きがんさん、三田太鼓、沖縄エイサー、
K-POPダンスなど)、屋台(韓国朝鮮料理、インドカレー、ギリシャ料理など)、統一川
柳 参加費: 無料 主催: 同実行委員会 連絡先: 090-1242-3981 (李)

■韓統連ホームページ、日々更新しています

韓統連ホームページでは、朝鮮半島情勢や私たちの活動予定・報告などを日々アップしてい
ます。また、講演や集会の動画を韓統連ユーチューブチャンネルで配信しています。あわせ
てぜひご覧ください。

韓統連



韓統連ホームページ

<https://chuo.korea-htr.org/>

韓統連ユーチューブチャンネル

<https://www.youtube.com/channel/UCg8NZg52O1VTAMlgrXfqiQ>

憲法裁判所による罷免決定がなかなか出ず、もどかしい日々が続いています。韓国では連日
即刻罷免を求めてたくさんの人々が街頭に出ています。わたしたちも韓国民衆に連帯し、勝
利を確信し闘いを続けていきましょう (李)